

語り続けよ！

シリーズ～続 福音の力～

2021/9/19



使徒言行録 18章1～11節

その後、パウロはアテネを去ってコリントへ行った。ここで、ポントス州出身のアキラというユダヤ人とその妻プリスキラに出会った。クラウディウス帝が全ユダヤ人をローマから退去させるようにと命令したので、最近イタリアから来たのである。パウロはこの二人を訪ね、職業が同じであったので、彼らの家に住み込んで、一緒に仕事をした。その職業はテント造りであった。パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人の説得に努めていた。シラスとテモテがマケドニア州からやって来ると、パウロは御言葉を語ることに専念し、ユダヤ人に対してメシアはイエスであると力強く証しした。

しかし、彼らが反抗し、口汚くののしったので、パウロは服の塵を振り払って言った。「あなたたちの血は、あなたたちの頭に降りかけ。わたしには責任がない。今後、わたしは異邦人の方へ行く。」パウロはそこを去り、神をあがめるティティオ・ユストという人の家に移った。彼の家は会堂の隣にあった。会堂長のクリスポは、一家をあげて主を信じるようになった。また、コリントの多く人々も、パウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受けた。ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。「**恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。**」パウロは一年六か月の間ここにとどまって、人々に神の言葉を教えた。



フィリピ

テサロニケ

アテネ

ギリント

ペロポネソス
半島

ローマ
スペイン

エジプト
シリア

コリントに来たパウロ

➤ 大都市コリント

- 物流の拠点であったコリントは人と物が行き交う大商業都市であった

➤ 疲れ切っていたパウロ

- 「そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした。」コリントー2:3
- 長旅とアテネでの宣教の失敗？

パウロだって衰弱し、恐れ、不安に襲われる！

与えられた励まし <その一>

➤ アキラとプリスキラ

- ローマ皇帝クライディウス帝の命令により、ローマから退去させられコリントに来ていた
- 福音が伝えられたことでローマのユダヤ人たちの間に争いが起こったことが原因か？

➤ 一緒に住んで、一緒に働く

- 彼らもパウロと同じ「テント造り」を職業にしていた
- 「テント」はパウロの出身地ギリキア産のヤギの毛織物や動物の皮から造られた
- 彼らの名前は同労者としてパウロ書簡に3度も登場する(ロマ16:3、コリー16:9、テモニ4:19)

与えられた励まし <その二>

- シラスとテモテがコリントに来る
 - マケドニアに誕生した群れを教えるために残した？
- 仕事を止め、宣教に専念する
 - 「パウロは御言葉を語ることに専念し、ユダヤ人に対してメシアはイエスであると力強く証しした。」
- ユダヤ人たちの激しい反対にあう
 - 「しかし、彼らが反抗し、口汚くののしったので…」
- 異邦人に向かう宣言
 - 「パウロは服の塵を振り払って言った。『あなたたちの血は、あなたたちの頭に降りかかれ。わたしには責任がない。今後、わたしは異邦人の方へ行く。』」

本格的な宣教活動

➤ 拠点を移すパウロ

- 「パウロはそこを去り、神をあがめるティティオ・ユストという人の家に移った。彼の家は会堂の隣にあった。」
- 会堂の隣で異邦人に福音を伝える➢ユダヤ人にけんかを売った？

➤ 救われる人たち(ユダヤ人も異邦人も)

- 「会堂長のクリスポは、一家をあげて主を信じるようになった。また、コリントの多くの人々も、パウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受けた。」

与えられた励まし <その三>

ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。『恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。』

恐れるな。語り続けよ。
黙っているな。

パウロだって恐れて
語れなくなる

わたしがあなたと共に
いる

最強の味方が
共におられる

この町には、私の民が
大勢いる

救われるべき人々が
まだまだいる

パウロだって落ち込みます

- 信仰の友による励まし
 - 共に生き、働き、語り合う友の存在
- 支援による励まし
 - 必要が満たされ、不安が解消される
- 御言葉による励まし
 - 恐れるな
 - 共にいる
 - 神の視点